

## 平野神社について

平野神社の公式ホームページによると、次のように書かれている。すなわち、

『 奈良時代末期の延暦元年（782）『続日本紀』に「田村後宮の今木大神に従四位を授ける」とあり、平城宮の宮中（桓武天皇の父光仁天皇の御所）に祀られていました。ここ平野の地には、延暦13年（794）平安遷都と同時に遷座されました。当初境内地は方八町余（平安尺で1500m四方）で、現在の京都御所とほぼ同じ大きさでしたが、時の変遷とともに現在の200m弱四方となりました。』・・・と。

しかし、近年の研究によると、元々は桓武天皇生母の高野新笠の祖神（桓武天皇外戚神）として平城京に祀られた神祠であったが、それが平安京遷都に伴って大内裏近くに移し祀られたことに始まると推測されている。

桓武天皇は延暦3年（784年）に平城京から長岡京を造営して遷都したが、それから僅か9年後の延暦12年（793年）1月、和氣清麻呂の建議もあり、桓武天皇は再遷都を宣言する。

平安京の造営はまず宮城（大内裏）から始められ、続いて京（市街）の造営を進めたと考えられる。都の中央を貫く朱雀大路の一番北に、皇居と官庁街を含む大内裏が設けられて、その中央には大極殿が作られた。その後方の東側には天皇の住まいである内裏が設けられた。

都の東西を流れる鴨川や桂川沿いには、淀津や大井津などの港を整備、これらの港を全国から物資を集める中継基地にして、そこから都に物資を運び込んだ。運ばれた物資は都の中にある大きな2つの市（東市・西市）に送り、人々の生活を支えた。このように食料や物資を安定供給できる仕組みを整え、人口増加に対応できるようにした。また、長岡京で住民を苦しめた洪水への対策も講じ、都の中に自然の川がない代わりに「堀川」を整備し、水運の便に供するとともに生活廃水路とした。そして長岡京で認めなかったようにここでも官寺である東寺と西寺を除き新たな仏教寺院の建立を認めなかった。広隆寺はこの時に太秦に移転されたとされ、北野上白梅町からは移転以前の同寺跡とみられる「北野廃寺跡」が見つかっている。この他平安遷都以前からの寺院として京域内には六角堂があったとされるが、朱雀大路から離れている他に、移転せずに済んだようだ。

そして、延暦13年（794年）10月に、桓武天皇は新京に遷り、翌11月には山背国を山城国に改名すると詔を下した。このような経緯で平安遷都という大事業が進んでいくのである

が、わずか1年9か月で長安の都と見まごうような都が日本にもできたのは驚きというほかはない。

高野新笠の祖神として平城京に祀られていた神祠が今の位置に祀られ、格式の高い、また広大な神社となったのは、今の桓武天皇の意思によるものである。

桓武天皇は、高野新笠の一族に大事に育てられ、道教の思想という新知識を身につけていく。その新知識がなければ、平安遷都はありえなかった。母親思いの桓武天皇は、母親に感謝しながら、平野神社の創建に力を注いだようである。

では、いささか古いが、私の作った「平野神社」というホームページを紹介しておきたい。

<http://www.kuniomi.gr.jp/togen/iwai/hirano.html>

平野神社の公式ホームページは次の通りである。

<http://www.hiranojinja.com/>